令和５年度　能美市立辰口中学校　学校評価　【後期】

2024年3月

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】達成度判断基準	取り組みの成果及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見 今後の改善策
1	組織的な学校運営	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働する中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	〈成果指標〉 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	〈教職員アンケート 1〉 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	〈教職員アンケート 1〉96% 前期よりやや下がったが、前期同様に主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図りながら進めることができた。今後もさらに情報共有を図りながら、そして改善点や反省点、引継ぎをしっかり行いながら進めていきたい。	A	<学校関係者評価者による意見> ・学校評価の中でも唯一、極端に低いポイントを示すのが<教職員アンケート３：勤務時間>に関する項目であるが、アンケートを取った時期は多忙感を特に感じるタイミングだったのかと推察できる。年間を通して、先生方には健康に留意され、業務に取り組んでほしいと願う。 ・生徒指導や相談関係について、組織的に情報を密に取れており、生徒一人ひとりの状況に応じて、対応ができている。個々に状況は異なるため、様々な対応が必要にはなるが、外部機関との連携も進め、今後も適切な対応に期待したい。 <今後の改善策> ・今年度は働き方改革を視野に入れたカリキュラムマネジメントを実施した。業務の平準化も含め、実際の数値に表れるように努めたい。
		②「気づき」を大切にし、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと平準化の工夫を図る。	教頭	〈努力指標〉 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月２回定時退校している。	〈教職員アンケート 2,3〉 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	〈教職員アンケート 2〉 96% 〈教職員アンケート 3〉 52% 前期よりも数値はやや下がっているが、教員の学校運営参画意識は高い。勤務時間短縮の意識も前年度よりも高まっており、時間外勤務時間も短縮されている。引き続き管理職からの声掛けを行うとともに、会議のない日や行事の精選などを行いながら進めていきたい。	D	
		③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	〈努力指標〉 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	〈教職員アンケート 4〉 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	〈教職員アンケート 4〉 100% 定期的な相談の会や生徒指導の会，学年会や職朝での情報共有等漏れのないよう丁寧な情報共有ができている。また，対応についても管理職を交えて組織的に行えている。未然防止の視点をより具体的に持つために，職員会議での呼びかけやいじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行ったことも効果的であった。ただ，数値で満足せず，目の前の生徒が安心・安全でより良い学びを得られるよう，工夫や改善を考え続けていきたい。	A	
2	確かな学力の育成（知）	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、ＧＩＧＡスクール構想を意識した授業改善を図る。	研究	〈努力指標〉 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まとめと振り返りを充実させ、主体的･対話的で深い学びを実現する。	〈教職員アンケート5, 6,14,15〉 〈生徒アンケート 16,19,34,35〉 〈保護者アンケート11,12〉 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができているか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	〈教職員ｱﾝｹｰﾄ 5〉99%〈 6〉96%〈14〉97%〈15〉96% 〈生徒ｱﾝｹｰﾄ 16〉 97%〈19〉95%〈34〉99%〈35〉96% 〈保護者ｱﾝｹｰﾄ 11〉85 %〈12〉86 % 生徒自身の思考・判断し表現させることはどの教科においても意識的、積極的に取り組んでいる。また、ICT機器の活用や授業改善の校内研修を行い、職員も授業をコーディネートする力を高めていった。その結果、見通しを持って学び、自分の考えを深め、広げることができるようになった、その際にICT機器の活用が役立っている、と感じているようである。今後とも、目標達成にこだわった授業改善をより一層進めていく必要がある。	B	<学校関係者評価者による意見> ・学校を訪問する機会が増え、授業を見る機会も増えたが、生徒はそれぞれ授業に対して前向きであり、主体的に学習に取り組む姿勢が見える。大変良いことである。 ・１人１台端末を活用した授業が昨年以上に進み、さらに今年度は授業改善のための校内研修も実施している。意欲的に授業改善に向かう先生方の姿勢が大変良い。 ・生徒が主体的に学びに向かうことは「自己肯定感」の醸成が何より大切であり、それが本校生徒の学びの姿に繋がっていると思われる。 <今後の改善策> ・今年度より「学びのベーシック事業」が始まり、次年度は２年目を迎える。総合的な学習の時間／課題研究を中心に据え、各教科等との横断により、主体的・対話的で深い学びの育成に努めていく。 ・課題研究の在り方について更に改善を進め、ＩＣＴ活用との連動により、生徒に実りある内容としていく。
		②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	研究	〈満足度指標〉 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずに褒め、生徒全員が「わかる･できる」と実感できる授業を創る。	〈教職員アンケート 7,9〉 〈生徒アンケート15, 18〉 自ら学ぶ積極的な態度が身につき、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	〈教職員アンケート 7〉96 %〈 9〉89 % 〈生徒アンケート 15〉 90%〈18〉92 % 「辰人スタイル」は授業のめざす姿であり、年度当初に確認を行い、1年間意識しながら取り組んでいる。アンケートの結果を見ると自ら学ぶ積極的態度が身に付き、わかり、できるようになったと感じている生徒も多いようである。	B	
		③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	〈成果指標〉 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	〈教職員アンケート 8〉 PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面での学力の向上に表れているか。	〈教職員アンケート 8〉 92% 学びの方向性を「総合的な学習の時間／課題研究」にベクトルを向け、探求型の学び、またＩＣＴを効果的に活用した授業の両輪により、思考力・判断力・表現力の育成に努めた。全国及び県学力調査から学力の検証と授業改善を重ねながら、「今求められている力」とは何かを教員全体で共有できていることが数値にも表れている。次年度も課題研究のあり方を再確認し、教職員全体でベクトルを合わせていく。	A	
3	豊かな心の育成（徳）	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒指導の４つの視点を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	〈教職員アンケート 10〉 〈生徒アンケート 29〉 Q－Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	〈教職員アンケート 10〉96% 〈生徒アンケート 29〉　95 % 教職員においては，各学年，各学級ともアンケートや面談をもとに親和的な学年学級づくりや，各個人に対しても非常に丁寧に指導に当たっている。生徒においても，各種行事における役割や，クラス内の一人一役など役割を与えらる場面が多くあり，そこで自分の役割を果たそうと動ける状況を今後も設定し，自己肯定感が高められる場を意図的に作っていく。	A	<学校関係者評価者による意見> ・コロナ５類移行を受け、生徒会活動や学校行事が活気を取り戻した。コロナ前に戻るのではなく、新たな形で進め、生徒の積極的な活動を今後も支援し、育ててほしい。 ・ボランティア活動が意欲的に行われていることが大変素晴らしい。 <今後の改善策> ・教員の働き方改革とのバランスを図りつつ、学校行事についてはコロナ前に戻るのではなく、新たな形の中でも生徒の達成感や成就感を醸成できるものにしていく必要がある。
		②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	〈満足度指標〉 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	〈生徒アンケート 26〉 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	〈生徒アンケート 26〉　80% 行事では生徒が前に出る機会が増えており、委員会単位で生徒から発信することも以前より増えている。生徒会執行部の提案から各委員会が動くこの形態を継続したい。生徒の掲げた公約を達成に導き，より意識を高めさせたい。また、エコキャップ回収やボランティアチャレンジにも多くの協力を得ることができたので、そのような呼びかけも続けていく。	B	
4	健やかな心身の育成（体）	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	〈満足度指標〉 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	〈保護者アンケート 5〉 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	〈保護者アンケート 5〉 82% 教育相談の会での情報交換や支援体制の確認，相談室の整備など居場所づくりや問題への対応準備はできている。また，生徒との個別の面談により，不安や困り感を吸い上げる体制は続けたい。加えて，生徒の困り感を職員が察知できるよう，さらに細かな情報共有も必要だろう。SCの紹介をはじめ，困り感のある生徒に対する積極的な生徒指導をおこなう。	B	<学校関係者評価者による意見> ・家庭で生活リズムを整えることは難しい。特に家庭におけるインターネットやＳＮＳとの向き合い方について、学校に何ができるかを考えていく必要がある。 ・部活動について、生徒は大変満足した取り組みとなっている。地域移行の話題もあるが、今ある状況の中で頑張ることができる環境を整え、一生懸命に取り組んでほしい。 ・相談室の環境整備も含め、相談体制も十分に整っている。定期的な面談や声掛けも含めて、生徒の悩みに寄り添う雰囲気づくりに努めてほしい。 <今後の改善策> ・今年度、相談室の環境整備が整い、支援員の配置や相談体制も揃えることができた。様々な役割の中で、連絡を密にし、生徒一人ひとりに寄り添う相談体制を継続していく。 ・部活動の地域移行については市との情報共有を進めていく。
		②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	〈満足度指標〉 家庭と学校の連携力が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート 6,8,9〉 ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 〈生徒アンケート 22〉 〈教職員アンケート 12〉 時間の３点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	〈保護者アンケート 6〉 78%〈8〉80%〈9〉82% 〈生徒アンケート 22〉 72% 〈教職員アンケート 12〉100% インターネットとの向き合い方については，学校全体や各学年等で生徒の現状や行事等の機会を想定し，定期的に行っているが生徒と保護者のアンケート結果とでは差がある。生徒や保護者の意識も高められる取り組みや声かけを行う必要がある。	C	
		③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	保健文化	〈成果指標〉 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	〈教職員アンケート 11〉 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。	〈教職員アンケート 11〉89% 後期は部活動の大きな大会や体育的行事等が無かったことで、肯定的評価が下がったと思われる。「そう思う」とみている教職員と、「どちらかといえばそう思わない」とみている教職員がともに増えていることは、教員それぞれの受け取り方の違いかと考えられる。今後は、更に個々の能力にあった目標を設定させ、それぞれの目標に向かって努力させていく必要がある。	B	
5	家庭や地域との連携	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	〈努力指標〉 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	〈教職員アンケート 13〉 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 〈生徒アンケート 13〉 地域とのつながりを考え、地域の方々や先生から学ぶことができたか。	〈教職員アンケート 13〉97% 〈生徒アンケート 13〉 97% 「総合的な学習の時間／課題研究」が本格化した２学期。コロナ５類移行により様々な制限が緩和されたことにより、地域との連携を図ることができた。元々、地域に向けた発信を目的とした課題研究であるため、今年度は夏休みを活用して積極的にフィールドワークができるような仕掛けをした。生徒会によるボランティア活動や学校公開を含め、地域との積極的なつながりについて、元に戻すのではなく、新たな視点で展開していきたい。	A	<学校関係者評価者による意見> ・この項目の評価が高いことはＣＳとしても嬉しいことである。ＣＳの活動について、これからも案内や周知を進めていきたい。 ・学校運営協議会としてできることをこれからも探っていきたい。生徒達と繋がるには何が必要なのかを考え、学校の力になることを今後も検討していきたい。 <今後の改善策> ・学校外に出る機会が増えた一方、各機関との連携がスムーズにいくよう、ＣＳとしての機能を活かしていく。 ・学校ホームページの充実を図り、保護者や地域への発信を続けていく。
		②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	〈満足度指標〉 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	〈保護者アンケート7, 10〉 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	〈保護者アンケート 7〉88% 〈保護者アンケート 10〉86% 今年度は学校ホームページの内容を充実させる取り組みを行った。日々の活動の記事だけではなく写真を掲載することで本校の取り組みを保護者の方や地域の方に理解していただけるよう努めた。また、学校運営協議会とも連携を図り、職業講話や職場体験、授業のサポートなどを実施したが、今後はそれらの内容をさらに発信していきたい。	B	

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、≪肯定的な意見がＡ：９０%、Ｂ：８０%、Ｃ：７０%、Ｄ：７０%未満≫として評価する。

◆評価は<１：そう思う、２：どちらかと言えばそう思う、３：どちらかと言えばそう思わない、４：そう思わない>の４つで選択する。

◆各項目で評価をする際に、２つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。